

短報

トウキョウヒメハンミョウの熊本県からの初記録

中菌 洋行

*1 熊本県博物館ネットワークセンター

キーワード：熊本県 初記録 トウキョウヒメハンミョウ

トウキョウヒメハンミョウ *Cylindera kaleea yedoensis* (Kano, 1933) は東京都の渋谷を模式産地とする体長8~10mmの小さなハンミョウ科甲虫である。体は暗銅色で、上翅は粗大点刻に覆われ、あまり目立たない白い紋がある。松本(1986)は本種の分布を東京周辺の関東地方と福岡県の北九州市としており、その特異な分布などから外来種である可能性についても言及している。さらに松本(2019)では、本種の分布が北関東、北陸、東海、近畿、中国、四国の各地方にも拡大している事が示されており、九州においても前述の北九州市のほか、長崎県池島(楠井 1998)、大分県(中島 1996)、宮崎県(木野田ほか 2012)から新たな生息地が報告されているが、現在のところ熊本県からの報告はないようである。筆者は阿蘇郡高森町において本種を採集しているので、下記の通り報告する。

トウキョウヒメハンミョウ *Cylindera kaleea yedoensis* (Kano, 1933)

熊本県阿蘇郡高森町高森, 1♀, 4-VII-2020, 中菌洋行採集

標本所蔵: 熊本県博物館ネットワークセンター (NB15-011048 (図1))

本種が採集されたのは、筆者の友人である井上欣勇氏の邸宅(阿蘇郡高森町)の庭である。この邸宅は2017年の秋に建てられたものであるが、その翌年の2018年7月28日、同氏より庭にいたハンミョウ科甲虫の種名を尋ねるメールが筆者に届き、写真を見たところ本種であった。自分の目で確かめたいと思いながらも、諸事情により実際に見るまでに2年かかってしまった。

松本(1986)によると本種は成虫では越冬しないため、今回採集された個体は2018年に井上氏により撮影された個体とは別個体と判断される。また、本種は公

園、墓地、神社の境内、人家の庭といった人為的環境を主な生息・繁殖場所としている(辻ほか 2019)ことから、いずれの個体もこの庭で発生したものである可能性が高い。同時に、2018年と2020年にそれぞれ成虫が確認されたことにより、同所で世代を繰り返しているという事も示された。今回の一連の確認状況から、邸宅が建てられた際に敷かれた土砂に、本種の卵、幼虫、蛹のいずれかが混入していたのではないかと推察される。

末筆ではあるが、本種の採集にご協力いただき、記録の公表を許して下さった井上欣勇氏とご家族の皆様、文献を手配して下さった宮崎昆虫同好会の木野田毅氏に御礼申し上げる。



図1 トウキョウヒメハンミョウ *Cylindera kaleea yedoensis* (Kano, 1933).

2021年11月16日受付 2022年2月9日受理
*1 熊本県宇城市松橋町豊福1695

引用文献

- 木野田毅・満木雄大・江藤享平. 2012. トウキョウヒメハンミョウを宮崎県で採集. 月刊むし, 491: 42.
- 楠井善久. 1998. トウキョウヒメハンミョウを長崎県の離島で採集. 月刊むし, 331: 39-40.
- 松本行史. 1986. トウキョウヒメハンミョウの生態. インセクタリアム, 23(7): 4-10.
- 松本行史. 2019. トウキョウヒメハンミョウの生態 — 生活環と休眠, および他種との比較—. *In*: 堀道雄 (編). 環境Eco選書14 日本のハンミョウ, 155-177. 北隆館.
- 中島三夫. 1996. 大分県下でトウキョウヒメハンミョウを採集. 二豊のむし, 32: 3.
- 辻かおる・曾田貞滋・堀道雄. 2019. 日本のハンミョウ類の来た道. *In*: 堀道雄 (編). 環境Eco選書14 日本のハンミョウ, 32-60. 北隆館.